

先進地視察報告書

会派行政視察

令和6年10月10日(木)

視察先
及び
視察事項

岩手県盛岡市

官民連携の取り組み

情報発信交流拠点

〔盛岡という星で BASE STATION〕

概要

盛岡市の関係人口を考える「盛岡という星で」プロジェクトの一環として、2021年から「盛岡という星で BASE STATION」がスタート。東京圏等の若年層向けの情報発信などの取り組みを効果的に行うとともに、地元の高校生などの若者と一緒に、地元の企業や団体が抱える地域課題の解決を創出しており、「官民連携による交流拠点」となっている。主な取り組みは移住相談、暮らしの体験ツアーの受け入れなど関係人口、地元企業・団体等が抱える地域課題とのマッチング支援等

〔盛岡市動物公園 Z O O M O〕

概要

新たな付加価値をつくる再生事業を行うため株式会社を2019年に設立。従来の行政の枠組みにとらわれず、行政の規制を緩和しながら民間企業同士のつながりを活かす PPP を採用。2023年4月にリニューアルオープン後市民の憩いの場としてだけでなく、動物福祉をコンセプトに社会教育、生物多様性保全の拠点としての役割を担う。

所感

盛岡という星で BASE STATION は百貨店撤退後の中心市街地活性化の一面を担った整備であったが、この施設は地元企業・地権者の協力もあり低家賃での運営であった。そうした背景もあり都会的な空間となっていて若者の居場所ともなっていた。本市においても中心市街地のデパート等の撤退後地元の協力を得ての新たな若者の居場所等の参考になると考える。盛岡市動物公園 Z O O M O は本市のアルプス公園と規模の違いもあるが市民の憩いの場の創出は共通の課題と考える

行政視察報告書

会派「開明」行政視察

令和 6 年 10 月 9 日(水)～11 日 (金)

視 察 先 及び 視察事項	・ 令和 6 年 10 月 11 日 (金)	1 作曲家・古関裕而氏の音楽を活かした
	10 : 30～12 : 00	まちづくり
	福島県福島市入江町	(1) 福島市古関裕而記念館 現地視察
		(2) 音楽によるまちおこし
		(3) 古関裕而メロディーバス 試乗

【福島市の概要】

福島県の北部に位置する県庁所在地で、人口は約 28 万人。古くは養蚕と阿武隈川の海運で栄えた城下町で、「福島三名湯」に代表される温泉と果物が豊富である。日帰りで東京と行き来できるアクセスの良さに加えて、東北中央自動車道などの高速交通網が整備され、福島県の政治・経済・文化の中心、南東北の拠点として発展を続けている。

【福島市古関裕而記念館】

応対者：公益財団法人福島市振興公社 福島市古関裕而記念館 館長 村上敏通様
同 学芸員の皆様

(1) 古関裕而氏について

古関裕而（本名・古関勇治）氏は、明治 42 年、福島市生まれ。昭和 5 年に日本コロムビア株式会社に作曲家として入社し、以来、平成元年に死去するまでに、国民に愛される作品や全国の校歌・社歌など 5,000 曲以上におよぶ多くの名曲を残した。代表作に「長崎の鐘」「栄光は君に輝く」「オリンピックマーチ」「六甲おろし」「福島夜曲」などがあり、我が国の音楽文化の普及と向上に貢献した。菊田一夫氏とのコンビで放送作品にも力を注ぎ、「鐘の鳴る丘」「君の名は」などの主題歌を発表して一世を風靡したことで知られる。昭和 44 年に紫綬褒章受章、昭和 54 年には福島市の名誉市民第一号となり、功績と栄誉を讃えられている。令和 5 年に野球殿堂入りも果たした。

(2) 福島市古関裕而記念館

大作曲家・古関裕而氏の業績を踏まえ、後世にその業績と古関メロディーを広く継承していくこと、および音楽文化の振興に資するため、昭和 63 年に市制 80 周年記念事業として開館。総事業費は約 3 億 3,000 万円。多くの写真パネル、直筆の色紙や作品楽譜など、豊富な資料が展示されている。

令和 2 年に、古関裕而氏夫妻をモデルにした NHK 連続テレビ小説「エール」が放映

されると、入館者数は数倍にふくれ上がった。記念館には、こうした観光名所としての顔に加えて、市内小学生が郷土の偉人について学ぶ教育文化施設としての側面もある。

記念館の管理運営は、指定管理者である福島市振興公社が担う。同公社は、市民文化の育成と労働福祉の増進を図り、市民の文化的生活向上に寄与することを目的として設立され、音楽堂や働く婦人の家、文化財調査室など 11 施設を管理運営している。

(2) 音楽によるまちおこし

福島駅東口には、古関裕而氏のモニュメントがあり、来訪者を迎えている。

平成 2 年には福島市古関裕而音楽賞貴金が創設され、ふるさと創生事業の位置づけで古関裕而記念音楽祭がスタートした。基金事業として、古関裕而音楽賞を設けて合計 40 曲の音楽賞曲を世に発表したり、記念音楽祭を開催したりしてきたが、古関裕而生誕 100 年を記念した平成 21 年度を区切りとして、音楽祭は鑑賞型から市民参加型へ移行。さらに今年度（令和 6 年度）からは、福島市古関裕而記念音楽祭実行委員会がテーマや企画、出演者を決定する企画主導型の音楽祭として開催されている。

(3) 古関裕而メロディーバス

令和 2 年秋、NHK 連続テレビ小説「エール」放映や東京オリンピック 2020 開催に沸く中で、大作曲家・古関裕而氏を PR することによって福島市を盛り上げるとともに、中心市街地の利便性を向上させる目的から、「古関裕而メロディーバス」の運行が始まった。

車体に音符が描かれた可愛い小型バスの、屋根に載せたラップ型のスピーカーから数々の古関メロディーが流れてくる。運行は 1 時間に 1 本の間隔、一方方向で運行されているため、降りたバス停と乗るバス停が同じで分かりやすい。かつて路面電車が走っていた旧電車通りも走行するなどして市内各所を巡る通常の運行ルートのほかに、イベントの送迎バスとしても人気を博しているという。

【所感】

「古関裕而氏」と聞くと、民放テレビ番組「家族そろって歌合戦」で審査員を務めておられたお姿が思い浮かぶ。大作曲家はいつも優しい笑顔で、コメントは出演者を褒める内容ばかりであったような気がする。

コロナ禍により気持ちが塞がれるような日々が続く令和 2 年、NHK 連続テレビ小説「エール」が放映された。ドラマは、昭和の時代を生き抜いた作曲家夫妻の波乱万丈の人生を描いて話題を呼び、大きな反響と人気を得ていた。戦時下で軍歌を作曲したことに対する後悔、被爆地・長崎をあえて明るく表現するに至った苦悩、東京オリンピックの行進曲に込めた希望などを吐露する主人公が、私には印象的に映った。そして、テレ

ビドラマ主人公の作曲家と、あの「家族そろって歌合戦」の審査員先生が同一人物であるということが、私の中でようやくつながった。

古関裕而記念館の外観は、名曲「とんがり帽子」を思い起こさせる塔が特徴的で、展示物には旧知の人物に会ったような親しみを覚えた。音楽に秀でた人は絵も上手、妻を愛し家族を想う優しさに満ちていて、館長・村上敏通様が「古関裕而先生のお人柄の良さが」と繰り返すたびに深く頷いた。やはり、「家族そろって歌合戦」のあの審査員先生は、本当に優しい人だったのである。

しかしながら、こうした記念館の永続的な維持管理はなかなか大変である。福島市の財産として、末永く大切に守り抜かれるよう祈ってやまない。

さて、（令和 6 年）2 月、世界的な指揮者である小澤征爾氏が亡くなった。セイジ・オザワ松本フェスティバル（OMF）は、「音楽とスポーツ都市宣言」を掲げ、国際都市、音楽都市「楽都・松本」を標榜する本市の本格的な実践活動として、象徴的な存在である。従って、小澤征爾氏亡き後の、セイジ・オザワ松本フェスティバルの今後は、非常に気がかりなところだ。

古関裕而氏が作曲家であるのに対し、小澤征爾氏は指揮者である。表現者ではあるが、作家・作り手ではない。また、古関メロディーが大衆的な分野で、誰からも気楽に受け入れられる点で裾野が広いのに対して、セイジ・オザワ松本フェスティバルが扱うクラシック音楽は、愛好家の割合がわずか 2%程度と聞く。こうしたことを踏まえると、未来に続く道のりの険しさを、我々は覚悟して進まねばならないように思う。

令和 6 年 10 月 25 日

松本市議会議員 上 條 温 様

会派「開明」 吉 村 幸 代